

露草を見て万葉集をふと思いました

2011年9月15日

澤田 繁 著

夏から秋にかけてひそかに青い色の花が咲いて、高原では目立つ色です。この花は古来から歌に詠まれている記憶があり、秋も始まりましたので、しみじみと和歌でも30年ぶりに読んでみようかなと思いました

とりあえず、万葉集を・・・月草との表記が多く9首あるそうです、“月草に衣は摺(す)らむ朝露に濡れてのちはうつろひぬとも”「露草で着物を摺り染めにしよう。朝露に濡れた後では色褪せてしむとしも」という歌。<衣に摺る>とは、花の汁を衣に摺り付けて染めること。露草の青は美しく、好んで染付に用いられたが、色は褪せ易いので、恋歌では人の心のうつろいやすさの象徴とされてしまう。



<自宅はいり口道路前に自生>



【ツククサ科・ツククサ属の一年生植物】

花ことば 尊敬・小夜曲・なつかしい関係。

誕生花 7月28日。

名前の由来

朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられた言う説がある。

別名

螢草・月草・帽子花・青花

漂(はなだ)花・かまつか・碧蟬花(へきせんか)

鴨頭草・鴨跖草(おおせきそう)

利用

花の青い色素はアントシアニン系の化合物で、着いても容易に退色する性質がある、青色の汁を採り、友禅染めの下絵描きに使う「青色紙」を作る。

万葉集の1首を書いて読解をこころみましたが、高校時代と同じでよく分からない。それでも10回くらい読んでみました。

和田に窪田空穂(くぼたうつぼ)記念館があることはしていましたが、一度も訪れたことがなかったので場所だけ確認して後日いこうと思います。

窪田空穂さんは、清水高原から車で25分程の東筑摩郡和田村(現松本市和田)に明治10年生まれ、歌人・国文学者。

作品《冬日ざし》の中に露草を読んだ歌があるので掲載します。

“露草のかそけき花に寄りてゆく心の行方ひとり喜ぶ”

